

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念を基に各ユニットそれぞれがスローガンを決め、毎朝のミーティング時に唱和し、共有に努めている。	法人の理念・方針のもと、毎年、事業所と各ユニット毎にそれぞれのスローガンを全職員が1つずつ提案し、全体会議で話し合って選定・決定することで理念の意識づけを図っている。また、職員の目に届くところに掲示し、毎日唱和して再確認し、共有とケアへの反映に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に挨拶をしたり、市の敬老会に参加している。 また、行事案内を回覧板に載せてもらい、近所の方の参加を募ってる。	毎月行っている行事の案内を回覧板に載せたり近所のコンビニに置かせてもらい、地域の方の参加を募っており、本年度に実施した「もちつき」には近所の方やボランティア参加の子供を含め、30人程の参加を得られた。また、散歩時の挨拶等を通じて顔見知りのかたも出来ており、中学校の職場体験の受け入れや、職員が泥上げ等の地域活動にも参加し、地域の一員として交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの一員として、見附市と協力して取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、会議時での意見を取り入れながら、サービス向上に取り組んでいる。	家族代表2名、地域包括支援センター職員、事業所職員3名が出席し、2ヶ月に1回、定期的で開催している。地域住民の代表として自治会長や民生委員、協力医にも参加を呼び掛けているが、本年度は参加を得られていない。事業報告と意見交換のほか、外部評価の結果も説明し、意見を仰いでサービス向上に活かしている。	運営推進会議は事業所が地域密着型サービスとしての役割を果たすために、地域の人等が運営を見守ったり、協力者として助言する機会でもあるため、地域住民の代表者の出席を得ることが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月見附市が開催するケアマネ会議に参加し、事例報告や、情報交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政には事業所の空き状況を報告したり、各種手続き等に関する相談をするなど普段からこまめに連絡を取り、連携を図っている。また、市主催の会議や研修会への参加や、市の防災訓練を見学する等、関係作りに取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを基に、研修会をおこなっている。 また、毎月の身体拘束委員会時にも、検討、勉強を行い、全職員に周知している。	身体拘束をしないケアのマニュアルが整備されており、定期的に研修会を実施し、職員の理解を深めている。身体拘束委員会も設置されており、毎月委員会を開催して事例検討や勉強を行い、結果を全職員に周知することで拘束しないケアの実践に努めている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修参加や、内部研修を行っている。 また、いつでも確認できるよう、マニュアルを事務所に置き、職員間で注意を払っている。	虐待防止のマニュアルが整備されており、定期的に研修会を実施し、職員の理解を深めている。身体拘束委員会には虐待防止も含まれており、毎月委員会を開催して事例検討や勉強を行い、結果を全職員に周知することで虐待防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、周知に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、疑問点や不安がないか尋ね対応している。 契約時にも、各項目ごとに不明点を聞き理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や介護計画の話し合い時に意見を聞き、個別の要望を取り入れている。	家族からは面会時等を活用し、意見・要望を聞きだすように努めている。訪問が少ない家族には、質問形式の手紙や電話で意見・要望等を伺っている。利用者の筋力低下を心配する家族の声を受け散歩を増やしたり、字を書くことを忘れないようにして欲しいという要望には習字や手紙出しのサポートを行う等、反映に努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティング時や、リーダー会議時、ユニット会議時に管理者は参加し、意見や提案を聞き取り入れている。 交換研修や、ユニット異動を行った。	月1回、リーダー会議・ユニット会議が実施され、職員が管理者等へ意見を言う機会となっており、活発な意見交換が行われている。その他、管理者は日々のミーティング時に問いかけたり、聞きだしたりするようにしており、職員も言い易い雰囲気を感じている。出された意見・提案は会議で協議し、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更改時に面談を行い、個人の要望や目標を聞き、係や担当を付けて向上心を持てるよう、給与アップも踏まえ行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、交換研修、センター内研修等を受ける機会を持ち、スキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や見附市の会議に参加して交流を図っている。 また、支社内でも各センターで集まり意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に面談し、困りごとや不安がないかお聞きし、入居されてからも要望等お聞きし、安心して頂けるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に面談し、ご家族様の要望や困り事をお聞きし、対応している。 入居後も、こまめに連絡を取るよう心掛けています。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居後の今後の方向性も話しあい、対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>個々の生活歴を十分理解し、趣味や特技を職員も一緒になり、行っている。</p>		
19	(7-2)	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>行事参加の呼びかけや毎月の手紙を通して本人の様子をお知らせしている。 また、外出や外泊等気軽に行ってもらえるようご家族にお知らせしている。</p>	<p>毎月、手紙や電話で家族に利用者の暮らしぶりを伝え、また家族参加の行事も企画し、訪問機会が増えるよう工夫している。家族の顔が判らない等、症状進行によりショックを受ける家族には、認知症について詳しく解説して不安を取り除き、また訪問してくれるようフォローし、関係維持のための支援を行っている。</p>	
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人、友人に面会に来て頂いている。 馴染みの美容室やかかりつけ医への通院を続けている。 お墓参りや、親戚宅へはご家族の協力してもらいながら出かけている。</p>	<p>これまでの生活での馴染みの人や場については、入居時に本人・家族から聞き取り、把握している。入居後も把握に努め、入手した情報は個人記録に記入し、情報共有している。昔から利用している美容院に行き続けている利用者や墓参りを続けている利用者があり、一人ひとりの関係維持に努めている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士の関係を把握し、別ユニットの方とも交流ができるよう、お互い行き来している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方の面会やご家族様へ手紙や電話連絡も随時行っている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務の中でも言葉や行動、表情など細かい所まで目を向け、日々のミーティングや定期的なケアカンファレンスにて検討している。	日々の関りの中から利用者のニーズを把握するよう努めている。職員から話しかける事により、思いがけず本人から思い出話が出され、言動や行動の意味を知る事もある。気付きを記載し、職員間でカンファレンスを行い全員で情報共有を図っている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に本人、家族、ケアマネ等からお聞きし把握に努めている。	入居前に利用者、家族から情報収集すると共に、介護支援専門員などからも聞く事により本人本位の生活のリズムを理解し、全体像を記録共有している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムを把握し、心身状態は細かく記録している。 ミーティング時やケアカン時に現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を基にケアカンファレンスを開き、本人、ご家族の希望を踏まえた介護計画を作成し3ヶ月毎に見直ししている。	日頃の本人の話や様子、家族の話などから思いや意向を把握し、介護計画に反映させている。介護計画の実施状況は日々の状態を記録した実践記録票を基に関係職員でケアカンファレンスを開催して検討し、必要な場合はその都度計画を変更している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し情報を共有している。 記録を基に介護計画の評価、見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1つの対応だけでなく、状況や希望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や馴染みの場所や商店に行けるよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での診察が受けられるよう、家族と協力し通院介助を行っている。	本人・家族が希望するかかりつけ医で受診できており、職員が通院介助を行っているが、希望により家族が通院介助を行う場合もある。また、主治医が事業所の協力医である利用者には月2回の定期往診が行われている。看護師による週1回の健康チェックを実施しており、利用者の適切な健康管理に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取っており、毎週看護師の診察時に相談やアドバイスを頂いている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに面会に行き、病院関係者やご家族と情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を取っており、重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針をご家族に説明し同意を得ている。	医療連携体制が取られていて「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」が作成されており、入居時に家族に説明し、早い段階から終末期のあり方について本人・家族と話し合い意向を確認のうえ方針を決定し、同意を得ている。また、状態変化に応じて都度話し合い、意向の確認を行っている。職員は看取りに関する研修を受講しており、終末期に向けた体制を整えている。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命講習を全員が受けている。また、急変時のマニュアルを事務所に掲示し、職員に周知している。	急変時のマニュアルが整備されており、事務所に掲示するほか、定期的に全職員で再確認し周知徹底を図っている。また、消防署が主催する救急救命講習を全職員が受講し、のど詰まりの対応等、緊急時の対応方法を習得し、事故発生時に備えている。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加し、地域との協力体制が築けるよう努めている。	年2回昼夜を想定した避難訓練を行っており、内1回は消防署の協力を得ている。今年度は毛布でダミー人形を作り職員2人でかかえて階移動を行なう等、より実践的な訓練実施を行っている。また、地域との協力体制構築にも取り組んでおり、今回の避難訓練から隣接する介護施設の職員の参加を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみと馴れ合いを間違えないよう、職員同士声を掛け合いながら対応している。また、感謝の気持ちを忘れずに尊厳を持って対応している。	定期的に接遇研修を実施し人格を尊重した対応やプライバシー確保について学んでおり、年長者として敬意を払い、その人らしい尊厳ある姿を大切に利用者に接している。トイレ誘導はさりげなく小声で呼びかけたり、「トイレ」という言葉は使わないようにし、利用者の羞恥心に配慮した対応を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話から本人が選択し易い状況を作り選んで頂いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを尊重し、個別対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着る服を選んで頂いたり、自分のくしで髪を整えたり、馴染みの美容室に行けるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューを取り入れたりしている。食事時の手の動きや咀嚼力も見ている。入居者様と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。	本社の栄養士が1ヵ月単位で作る献立を基本としているが、畑で収穫したり頂いた野菜があった場合は職員が献立をアレンジして取り入れ、季節感を出す工夫を行っている。また、変化を与え食事を楽しむため、月に2～3回リクエストメニューを実施したり、オードブルや店屋物等の配達を取り入れている。買出し・調理・片付けは利用者のできる範囲で職員と共に行っており、利用者が持てる力を発揮する場となっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量チェックを行い、食事量が少ない方には補食を、水分量が少ない方には、ゼリー等で対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけ、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。 また、行動や表情からも読み取れるよう努めている。	排泄チェック表を用いて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その状態に合わせてトイレでの排泄ができるよう支援している。状態が悪化して失禁がありオムツを使用していた利用者が、定時誘導を続けることで失敗も減り、状態が良くなりリハビリ使用に改善した例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトを提供している。 また、家族や看護師、主治医と相談しながら取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望をお聞きし、毎日入浴したい方は、毎日入浴して頂いている。 入浴拒否等の場合は、足浴や清拭で対応している。	入浴日は決めておらず、一人ひとりの希望に合わせて入浴しており、毎日でも入浴が可能となっている。入浴したがない場合は時間や担当を変えて入浴を促すが、それでも拒否の時は清拭や足浴マッサージ機(フットバス)に変え、利用者に無理をさせずに清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、日中の活動を促し昼夜逆転を防止している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤早見シートを見て確認している。 臨時薬や変更時は記録、申し送り、薬剤早見シートの変更の徹底に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作業や外での洗濯干し、散歩やドライブ等の外出の機会を多く持ち気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、ドライブ、市民交流センター等入居者様に合わせて外出している。	天気が良ければ近隣を散歩したり、事業所敷地内の畑作業や観察を行うほか、駐車場に簡易テントを張りお茶会等を行う等、少しでも建物外に出て日に当たり外の空気に触れられる機会が持てるよう、取り組んでいる。また、個人的な買い物や催事参加等、利用者の希望に添うよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、所持せず、センター預かりにしているが、買い物時、自分で払って頂ける工夫をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をしている。 また字が書ける方は、希望にて家族に暑中見舞い等を出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを行っている。 幼稚にならないように工夫している。 エアコンは、設定温度を決め、いつでも快適に過ごして頂けるよう努めている。	食堂の椅子や居間のソファ等高級感が感じられる品々で、利用者への敬意が感じられた。空調や清潔保持への配慮は行き届いており、居心地よく過ごせる環境作りがなされている。生活感を出すため行事等の写真や季節感が感じられるものを掲示し装飾しているが、目上の方への配慮として幼稚な飾り付けにならないよう気を付けている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや玄関前や廊下にソファを置き、自由に移動できるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの物を持参して頂くようご家族にお願いし、居心地よく過ごせる環境を工夫している。	家族に協力をお願いし、今まで使用していた家具や品物を持ち込まれており、馴染みの物の中で落ち着いて過ごせる環境づくりがなされている。また、本人・家族と相談しながら、家族写真や趣味の作品掲示にも協力し、その人らしい部屋づくりに努め、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の掲示をしたり、日付や今日のメニュー等も掲示して、自立した生活が送れるように工夫している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					